ねりまの駅めぐり 13駅目
小竹向原駅
東京メトロ・西武有楽町線

芸術系大学のある江古田駅や新桜台駅にも近い小竹向原駅。落ち着いた佇まいの町には、地域ぐるみの音楽祭など文化の香りが漂います。

次は 中村橋駅

桜並木の下を走る道路と地下鉄

関静な住宅地が広がる小竹町に、営団地下鉄（現、東京メトロ）有楽町線の小竹向原駅が開業したのは昭和58年。駅名は、隣接する板橋区向原との境にあるため、この名になりました。今では西武池袋線や東武東上線も相互乗入れし、練馬と都心を結ぶ交通の要となっている同駅も、開業までには長い道のりがありました。

駅前を走る都道放射36号線（通称、三六道路）は、当初の計画では小学校の校庭や住宅地を通る計画でした。しかし、地元住民の粘り強い運動により校庭部分を地下化に変更し、区立小竹小学校の下をトンネルが通ることになりました。

こうして環境に配慮した**さぶろく四季の道**❶と呼ばれる緑豊かな遊歩道が整備されました。遊歩道内の区立自転車駐車場入口には、住民の環境保全への取り組みを称えた記念碑が建っています。

▲小竹トンネル上に見える遊歩道の緑

▲緑豊かな「さぶろく四季の道」

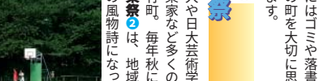
◀三六道路完成記念の石碑

世界一小さな小竹の森音楽祭

近くには武蔵野音大や日大芸術学部があり、芸術家や音楽家など多くの文化人が住んでいる小竹町。毎年秋に開催される**小竹の森音楽祭**❷は、地域ぐるみの行事として町の風物詩になっています。名称の〝小竹の森〟は、会場である区立小竹小学校の緑のシンボルになっています。

「平成5年に音楽祭が開催されてから、今年で12回目を迎えます。当時の佐藤公泰校長が〝音楽家が多い町の特性を活かした音楽祭を地域規模で開催してはどうか〟と提案したことがきっかけで、学校とPTA、小竹町会の三者が「小竹の森音楽祭実行委員会」を結成し、音楽祭の開催が実現しました。〝世界一小さな音楽祭〟として始まった音楽祭も、年々規模が大きくなり盛況になっています」と、話されるのは高須英利現校長です。

音楽祭は二部構成、第一部は、小竹小の児童や卒業生、父母たち、町内の皆さんによる合唱団や吹奏楽団など、子供からお年寄りまで幅広い年齢層が参加するアマチュアの部。第二部は、第一線で活躍する音楽家が登場するプロの部です。毎年、地域にちなんだテーマや出演者・曲目など内容も工夫されています。最後を飾るフィナーレでは、プロ・アマ合同でラデツキー行進曲が演奏され、音楽祭は幕を閉じます。本物の演奏が聴けると大好評の音楽祭には色々な方が参加しており、世代を超えた交流の場にもなっています。


▲桜の名所でもある〝小竹の森〟

町のお父さんグループ「森のPapas」

小竹小学校吹奏楽部

「ピーターと狼」を演奏するプロの部

小竹の森音楽祭合唱団・小竹町吹奏楽団

「多くの人々を魅了する音楽祭も、それを支えている多くのボランティアの存在なくしては語れません。企画運営、出演交渉、会場設営、受付・案内、警備、交通整理など、全て実行委員会と地域のボランティア・スタッフの手により行われています。限られた予算の中での開催は大変ですが、地域の全面協力なくして音楽祭の成功はありえません」と高須校長。

スタッフのみならず、参加されるプロの音楽家の皆さんも全てボランティアだとか。参加者やスタッフには小竹小OBも多く、「音楽祭のあたたかな雰囲気は、この町で生まれ育った人達の母校愛や、わが町への故郷愛からきているのかもしれません。〝自分の町は自分達の手で〟という『小竹の心意気〝なんですね』。こうした地域ぐるみの活動が認められ、「平成13年度地域づくり団体総務大臣賞」や「平成14年度朝日のびのび教育賞」を受賞しています。

「今年の音楽祭は10月31日（日）に開催します。音楽祭に来られたら、音楽を聴くだけでなく、裏方スタッフの活躍ぶりも是非見て欲しいと思います」音楽を通して育まれた町の文化交流は、きっと小竹の子供たちの心の故郷として、いつまでも受け継がれていくことでしょう。

●小竹の森音楽祭（小竹町2の6の2）
◆主催／小竹の森音楽祭実行委員会
◆会場／小竹向原駅周辺・区立小竹小学校
◆入場料／無料◆詳細はお問い合わせ下さい。
◆問合せ／小竹小学校 ☎（3956）8391

▲昨年の小竹の森音楽祭フィナーレより（写真／小竹の森音楽祭実行委員会）

音楽の町で見つけたどれみふぁ・そらしど

さぶろく四季の道から南へ。小竹通り周辺には**どれみふぁ緑地**❸・**そらしど緑地**❹・**水琴緑地**❺という、とてもユニークな名前の空間がありました。それぞれ「音楽の町」にふさわしい名前やオブジェが置かれています。どれみふぁ緑地は、トランペット型車止めやピアノの鍵盤模様の敷石など遊び心溢れるデザイン。そらしど緑地は、緑の小径や琴を模した時計塔が落ち着いた雰囲気。一方、水琴緑地には水を流すと琴のような音色が地中から聞こえる水琴窟があり、癒しの空間を作っています。

楽しいネーミングといい、アートなデザインといい、子供たちが安心して遊べ、かつ誰もがちょっと一休みしたくなる、こうしたやすらぎの空間がこれから町のあちこちに増えていくと嬉しいですね。

▲水琴緑地（小竹町1の73）

▼そらしど緑地（小竹町2の45）

▲どれみふぁ緑地（小竹町1の69）

information

まちづくり条例中間報告シンポジウムのご案内

●日時　8月24日（火）　午後6時30分～午後9時
●会場　練馬区役所地下　多目的会議室
●内容　＜第一部＞基調講演「地方分権とまちづくり条例」
講師　北村喜宣（上智大学教授）
＜第二部＞パネルディスカッション
まちづくり条例を制定している自治体で条例づくりに関与した市民や運用している自治体職員等の参加により、実際の運用や課題などについて討論します。

※詳細については、8月11日発行の『ねりま区報』でお知らせします。

●問合せ　練馬区都市計画課　☎（3993）1111(代)

中村橋駅周辺交通バリアフリー 基本構想 まとまる

平成15年9月より地元商店会、町会・自治会、障害者団体、公募区民等で構成する「策定懇談会」と、国・都・交通事業者等で構成する「策定委員会」で進めてきました基本構想は、本年5月11日に『ねりま区報』で広く区民の方の意見を募集し、この程、決定しましたのでお知らせします。

この基本構想は、区ホームページ、各図書館、サンライフ練馬でご覧になれます。

●問合せ　練馬区都市計画課　☎（3993）1111(代)
※区ホームページ　http://www.city.nerima.tokyo.jp/

今日から参加する
防災活動・防災ボランティア

防災を通し、命の大切さを伝える 心のあかりを灯す会

こころのあかり
▲会のマーク

区立小学校に出かけて、手作りの紙芝居、体操、人形を使ったクイズなど、工夫をしながら、防災のことを子供たちに伝えている〝心のあかりを灯す会〟の皆さん。40人近いメンバーの多くはPTA活動などから避難拠点連絡会会員として地域で活動するようになり、さらに、この会に参加するようになったのだそうです。

「避難拠点連絡会会員としては、災害時の救護や炊き出し、トイレ対策などハード面を中心に、会の活動ではソフト面を」と、災害時に必要な両方の面を考えて、区と協力して活動しています。

大変なことのように思いますが、「絵の得意なメンバーが会のマークを作ったり、それぞれが適材適所で、無理せず和気あいあいと活動しているんですよ」と、会長の鈴木恭一郎さん。「ほかにも、1月17日頃には阪神・淡路大震災で学んだ事を伝えるイベントを開催したり、練馬区に避難している三宅島の方たちの支援や、二宅島のお菓子〝さつまナゲット〟を作って、練馬まつりで販売するなどの活動もしています」と楽しそうに話されます。

▲毎月開催される定例会の様子

手作りの防災紙芝居の1コマ▲

▲子供たちに防災の話をする会のみなさん

会の名前の由来は、神戸市の東遊園地にある、慰霊と復興のモニュメント「希望の灯り」にあるそうです。分灯された「灯り」が、練馬区にも来たのを機に「はじめは〝希望のあかりを灯す会〟としてスタートしました。しかし、慰霊祭や鎮魂祭のようなものではなく、防災を通して、命の大切さや、人への思いやりを、次世代に伝えていくような活動をしたいと、会の名称も〝心のあかり〟にしたのだそうです。

▲東遊園地の希望の灯り

▶会長の鈴木恭一郎さん

「地震はいつ来るかわからないので、なにかあったときではなく普段からのことが大切です。防災のことは体験しないとわからないので、簡単なことでもいいんです。たとえば、炊き出し用のバーナーを防災課から借りて、地域のイベントで使ってみる。そんなふうに体験すればいいんです」と鈴木さん。

防災に必要なことが楽しく学べる活動に、みなさんも参加してみてはいかがでしょうか。

▲中学生との交流活動の様子。名古屋市立上社中学校、練馬区立中村中学校、練馬中学校の3年生が参加しました

お問い合わせ
心のあかりを灯す会事務局
練馬区防災課
☎ 3993－1111(代)
Eメール
bousai@city.nerima.tokyo.jp

練馬区立小・中学校（全103校）にある 避難拠点の防災活動

避難拠点は…　阪神・淡路大震災の被害や、避難の状況から、練馬区で独自に定めたものです。区立の小中学校は、地域での災害時の活動拠点にもなることから、単に「避難所」や「避難場所」と呼ばずに「避難拠点」と名づけています。

避難所＋防災拠点＝避難拠点

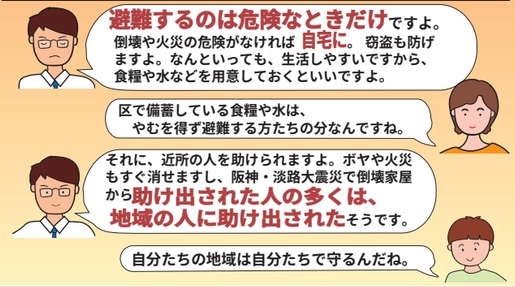
各避難拠点では…　区民のみなさんの自主的な組織である、避難拠点運営連絡会が活動しています。町会・自治会・管理組合・PTA・各種団体・個人が参加しています。

▼炊き出し訓練の様子

▲子供たちも参加して行なわれている防災訓練

※避難拠点の活動については、練馬区防災課[☎3993－1111(代)]にお問い合わせください。

③その後の3日間（救援活動が整うまで）



大地震のような同時多発災害が起きた場合、警察・消防・区だけで対応するのは困難です。防災会や避難拠点運営連絡会など地域の活動を活発にしていきましょう。

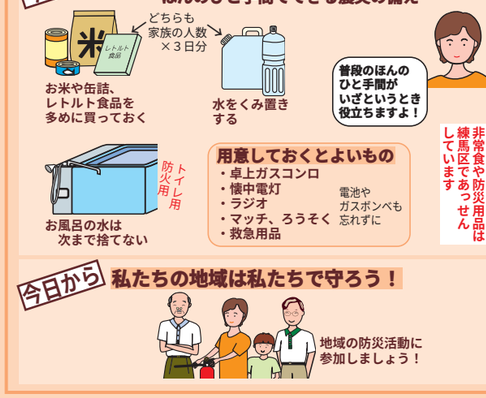
どうしたらいいの？

その時 危険な場合は 避難拠点へ

その時 避難するときには

・近所に声をかけて
・ブレーカーやガスの元栓を切ってから
・周りを注意しながら徒歩で

今日から これだけは自分で備えておこう！ ほんのひと手間でできる震災の備え



今日から 私たちの地域は私たちで守ろう！

地域の防災活動に参加しましょう！

今日からはじめる わが家の防災 お助け情報

防災用品をあっせんで購入するには

練馬区民の方、区内に勤務先のある方を対象に、家庭用防災用品を、練馬区が市価の2割引きであっせんしています。（一部商品を除く）

●あっせん
はがきや、FAXでの申し込みにより、購入できます。※配送先は練馬区内のみ
練馬区役所（本庁舎7階）で防災用品の展示、パンフレットの配布をしています

お問い合わせ先
東京都葛飾福祉工場
〒125-0042 葛飾区金町2-8-20
☎ 3608-3541 FAX 3608-5200

◆インターネットからも、特別価格で
防災用品を特別価格（販売価格の5%程度の割引）で購入できます。
※配送先は練馬区内のみ

SHOP RESCUE（㈱レスキューナウ・ドットネット）
http://shop.rescuenow.net/nerima/top.html

簡単な耐震診断(無料)をするには

●パンフレットをもらう
簡単な自己診断のパンフレットが練馬区建築第二担当課、防災課、各出張所でもらえます。

●地域で説明会を開く
練馬区防災課職員や建築の専門家が、簡単な自己診断の仕方を説明してくれます。町会や自治会などで開いてみては？　練馬区防災課へ

●ホームページで自己診断する
社団法人　東京都建築士事務所協会
http://www.taaf.or.jp/index01.html
社団法人　東京都建設業協会
http://www.token.or.jp/taishin/

●建築無料相談に行く
東京都建築士事務所協会が、練馬区役所で無料相談をやっています。

※専門家が現地調査する耐震診断は有料です。

練馬区には、マンションなどの診断費用の一部を助成する制度があります。詳細は、練馬区防災課へ

建築無料相談のご案内

～毎月第4月曜 練馬区役所内で開催～

耐震診断に関することをはじめ、お住まいに関する様々なご相談（新築・改築、苦情、工事業者とのトラブル、公的融資など）に、専門の建築士が無料でお応えします。

どうぞお気軽にご活用下さい

次回　8月23日(月)　次々回　9月27日(月)
時間　午前10時～12時　午後1時～4時
会場　練馬区役所　本庁舎1階　臨時窓口

【主催】社団法人東京都建築士事務所協会・練馬支部
☎・FAX（3920）9901